

区長会説明会資料



住み慣れた地域でともに支えあい
最期まで安心して暮らせるまちをめざして

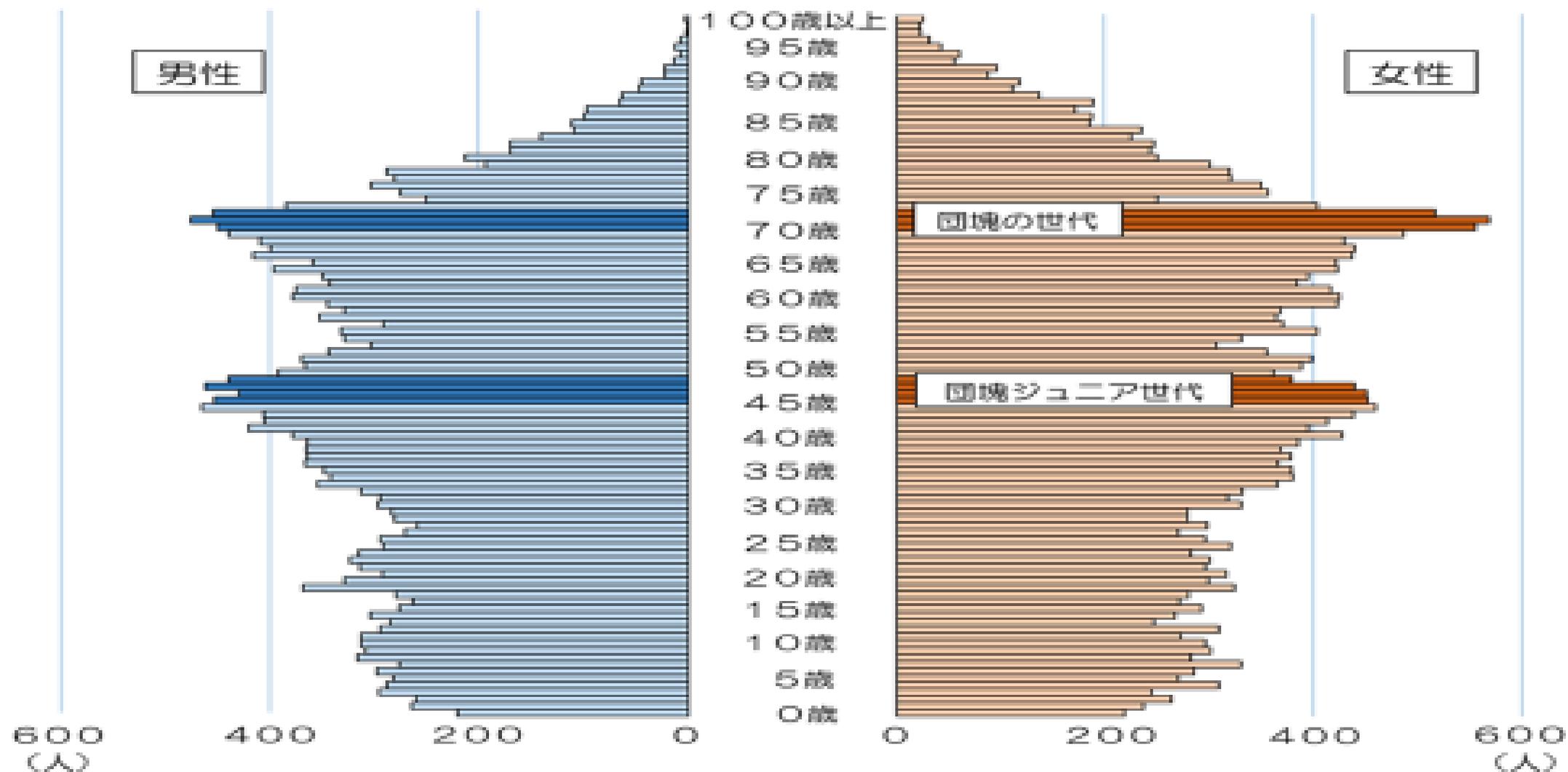
～高齢者を取りまく地域課題を、解決していくシステム作り～

古賀市 介護支援課

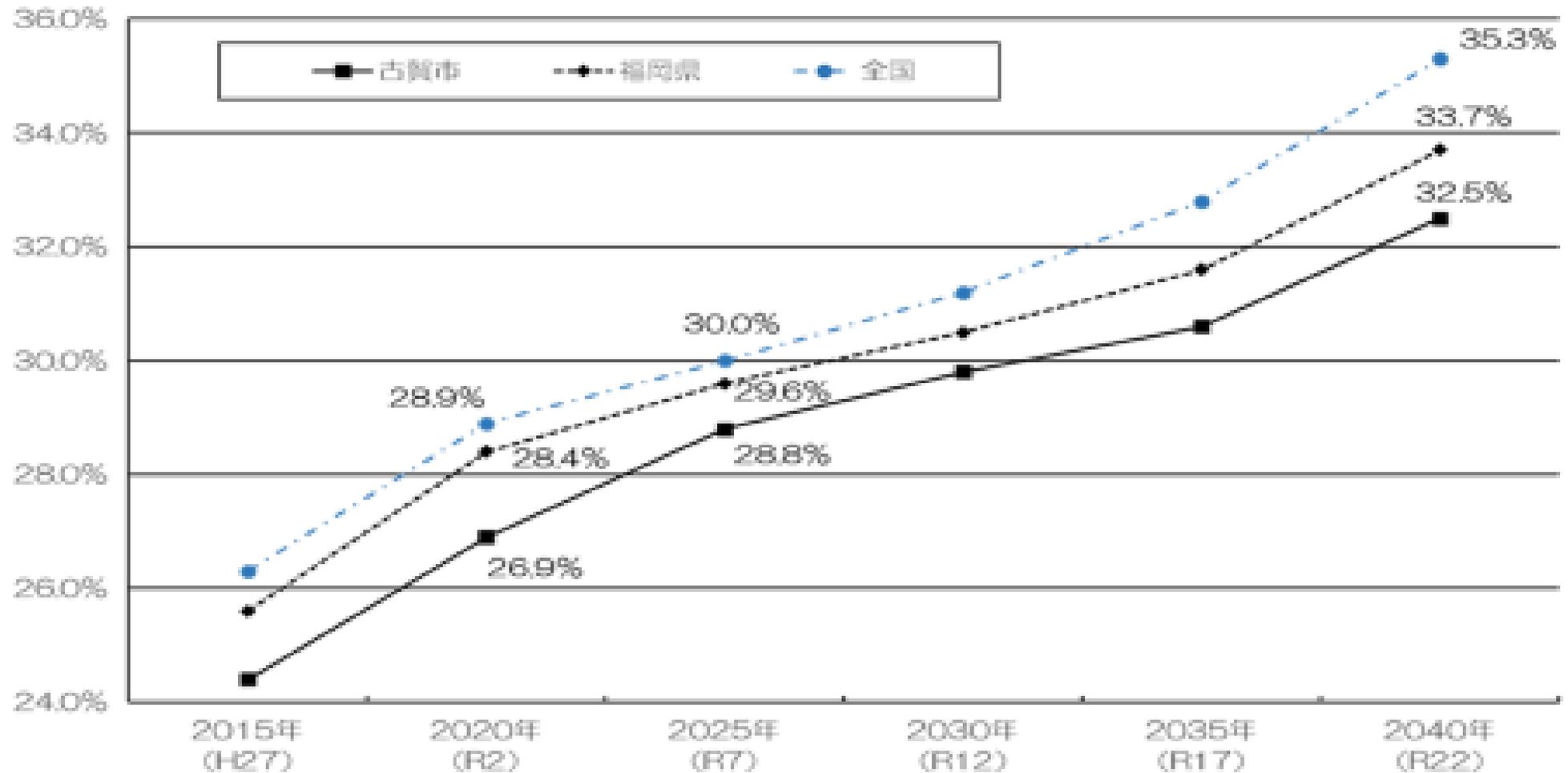
古賀市の 高齢者の状況



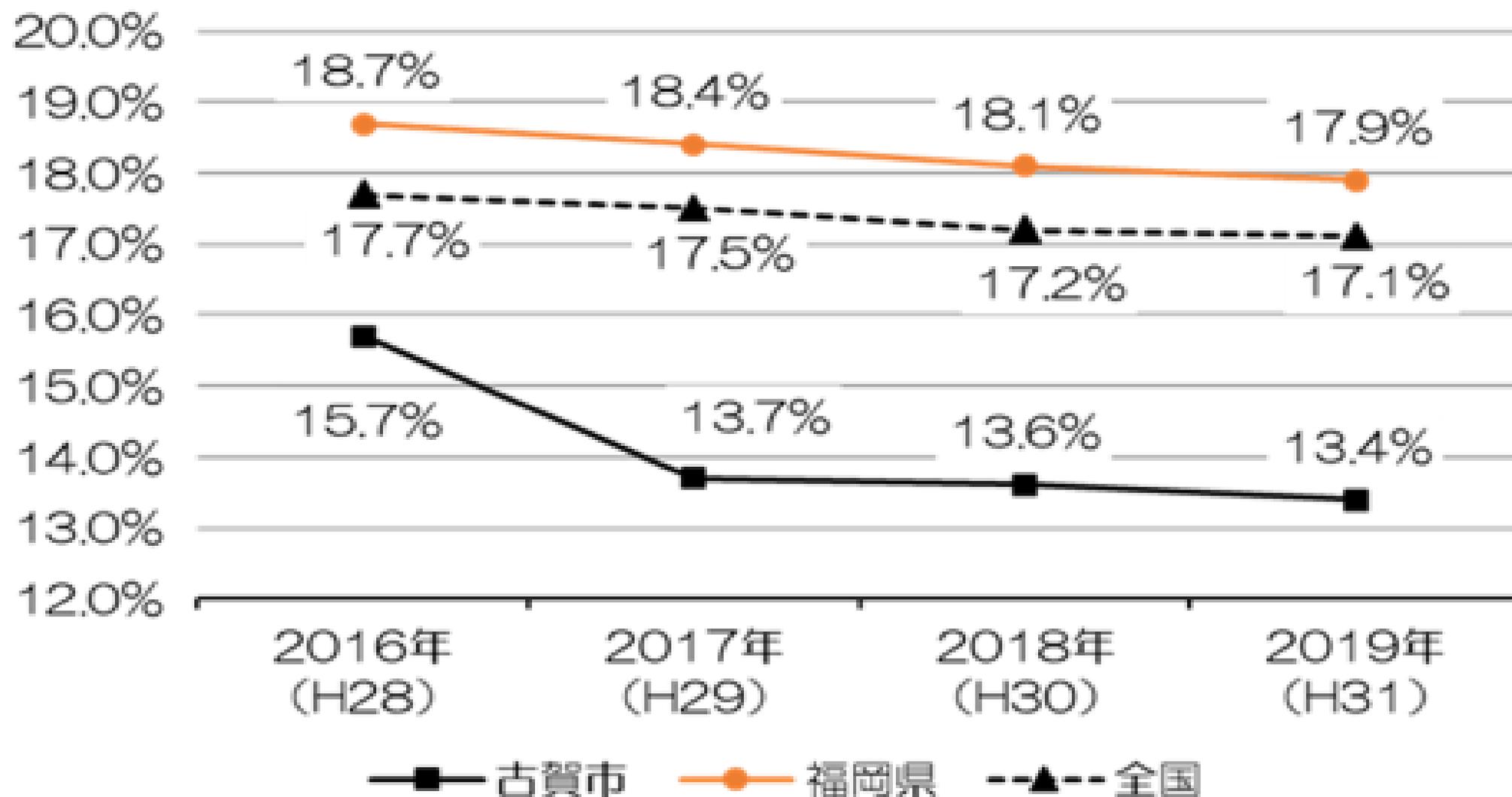
古賀市の人口ピラミッド (令和2年3月31日現在)



高齢化率の推移



認定率の推移



		2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (H31)	2020年 (R2)
世帯数 (世帯)	全世帯数	24,175	24,517	24,858	25,488	26,085
	高齢者のいる世帯 (合計)	9,761	10,082	10,370	10,679	10,921
	高齢者のみの世帯	6,456	6,725	6,988	7,310	7,610
	一人暮らし高齢者世帯	3,098	3,278	3,430	3,597	3,764
	高齢者夫婦世帯	3,214	3,305	3,409	3,554	3,675
	その他高齢者同居世帯	144	142	149	159	171
	高齢者のいる一般世帯	3,305	3,357	3,382	3,369	3,311
全世帯に占める割合 (%)	全世帯数	100%	100%	100%	100%	100%
	高齢者のいる世帯 (合計)	40.4%	41.1%	41.7%	41.9%	41.9%
	高齢者のみの世帯	26.7%	27.4%	28.1%	28.7%	29.2%
	一人暮らし高齢者世帯	12.8%	13.4%	13.8%	14.1%	14.4%
	高齢者夫婦世帯	13.3%	13.5%	13.7%	13.9%	14.1%
	その他高齢者同居世帯	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.7%
	高齢者のいる一般世帯	13.7%	13.7%	13.6%	13.2%	12.7%

	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	
配布方法 回収方法	郵送による配布回収	
抽出方法	介護認定を受けていない者 総合事業対象者 要支援1・2認定者 以上の方の中から無作為抽出	
配布数		4,080件
有効回答数		2,424件
有効回答率		59.4%

アンケートから見えてくる古賀市高齢者の現状（要介護認定を受けていない人）

要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者100人のうち約何人？

令和2年3月
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より独自編集

生きがいがあると感じている人 **57人**



趣味のある人 **72人**



週に1回以上外出している人 **90人**



内**36人**は
5回以上

日用品の買い物をできるし、している人**77人**
(できるけどしていない人 **14人**)



ご自宅でストレッチや筋肉トレーニング、
軽い体操ウォーキングを週に一回以上行う人

誰かと毎日、会話している

毎日料理する人 **62人**

健康について記事や番組に関心がある人 **89人**



67人



84人



女性が男性の
2倍以上
調理を担って
います。



新聞読んでいる人 **77人**
本や雑誌を読んでいる人 **71人**

誰かと毎日食事をしている人

54人

若い人に自分から話しかけることがある

自分で電話番号を調べて、
電話をかけている人

82人



ほぼ毎日お酒を飲む人 **20人**
飲まない人 **61人**



73人

年金などの書類(役所や病院などに出す書類)
が書ける人 **86人**



ほぼ毎日タバコを吸っている人 **7人**
吸っていたがやめた **27人**
もともと吸ってない **63人**



週に何回かある 9.4人
月に何回かある 14.9人
年に何度かある 11.6人

貯金の出し入れをしている人



78人

できるけどしていない人 **14人**



バスや電車を使って一人で外出できるし、
している人 **72人**



できるけど
していない人**14人**

ひとり暮らしの増加に伴い、毎日の共食を行う高齢者が減ってきている。

アンケートから見えてくる古賀市高齢者の現状（要介護認定を受けていない人）

健康編

要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者100人のうち約何人？

現在の健康状態

・とても良い**9人** ・まあよい**66人** ・あまり良くない**19人** ・良くない**4人**



体の健康

- 階段を手すりや壁をつたわずに登っている人 **52人**
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上げられる人 **67人**
- 15分くらい続けて歩いている人 **72人**
- 歩くのが遅くなった人 **65人**
 - 一年間で転倒経験がある人
 - 一度ある **22人** 何度もある **12人**
 - 転倒の不安がある人
 - とてもある **16人** ややある **37人**



お口の健康

- 半年前に比べて固いものが食べにくくなった人 **33人**
- お茶等でむせることがある人 **27人**
- 口の渇きが気になる人 **29人**
- 自分の歯が20本以上あり入れ歯を利用していない人 **29人**
- 毎日歯磨きをしている人 **90人**



脳の健康

- 物忘れが多いと感じている人 **43人**
- 今日が何月何日かわからないときがある人 **26人**
- 5分前のことが思い出せる人 **86人**



心の健康

- この一か月間、気分が落ち込んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがある人 **38人**
- この一か月、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくある人 **24人**

アンケートから見えてくる古賀市高齢者の現状（要介護認定を受けていない人）

令和2年3月 介護予防・日常生活圏域二エズ調査より独自編集

地域編

古賀市の高齢者は、地域についてどう思っているの？（100人中何人？）

●普段の近所との付き合い方

会えば挨拶を交わす程度	42人
世間話や立ち話をする程度	36人
留守をするときに声を掛け合う程度	3人
困っているとき相談や助け合いができる	12人

●将来も、今の地域に暮らし続けたい

とても暮らし続けたい	17人
暮らし続けたい	72人
あまり暮らし続けたくない	7人
暮らしたくない	2人

●住んでいる地域の支え合いの実感

とても感じる	7人
感じる	45人
あまり感じない	34人
感じない	11人

●あなたが最期を迎えたいと思う場所はどこですか

自宅	43人
病院などの医療施設	29人
子どもの家	1人
兄弟姉妹などの親せきの家	1人
高齢者向けのケア付き住宅	4人
特別養護老人ホームなどの福祉施設	4人

●住んでいる地域の支え合いの必要性

とても思う	21人
思う	63人
あまり思わない	11人
思わない	2人



交流編

アンケートから見えてくる古賀市高齢者の現状（要介護認定を受けていない人）

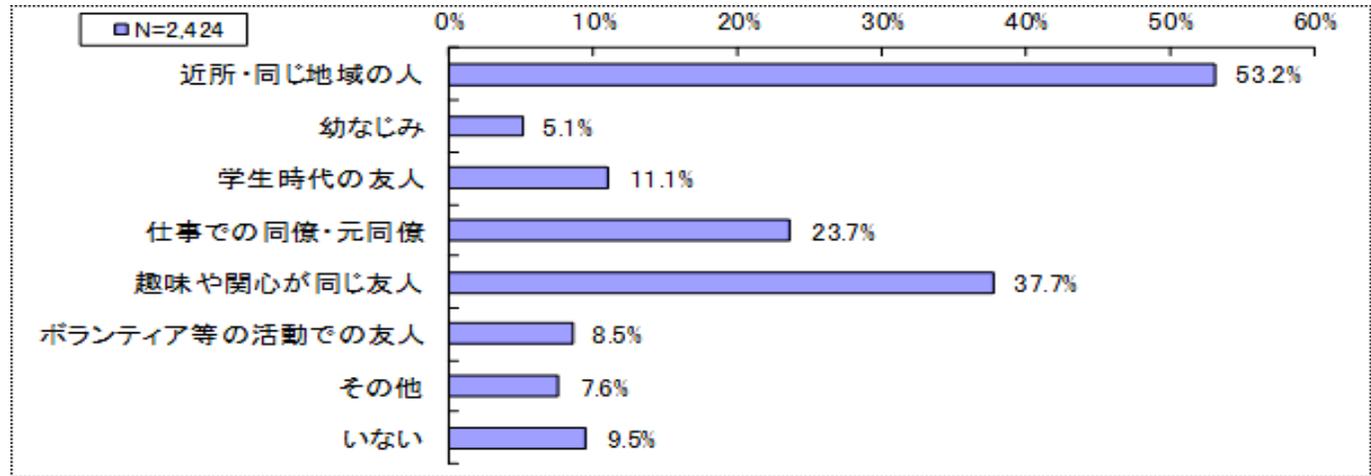
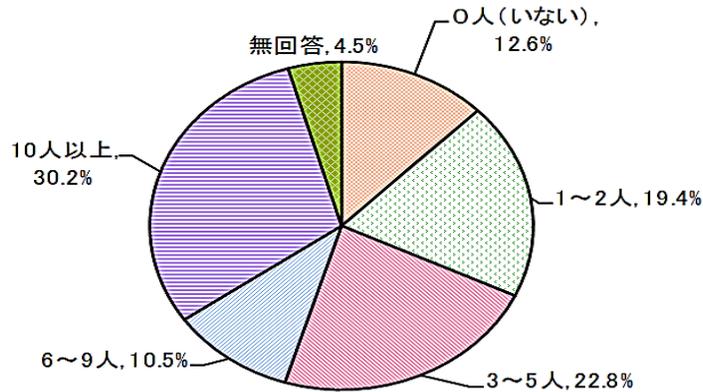
要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者100人のうち約何人？



●友人の家を訪ねている人 **45人**

●一か月間に知人や友達と一人以上あった **45人**

●よく会う友人・知人はそのような関係ですか



●1週間に1回以上参加している人

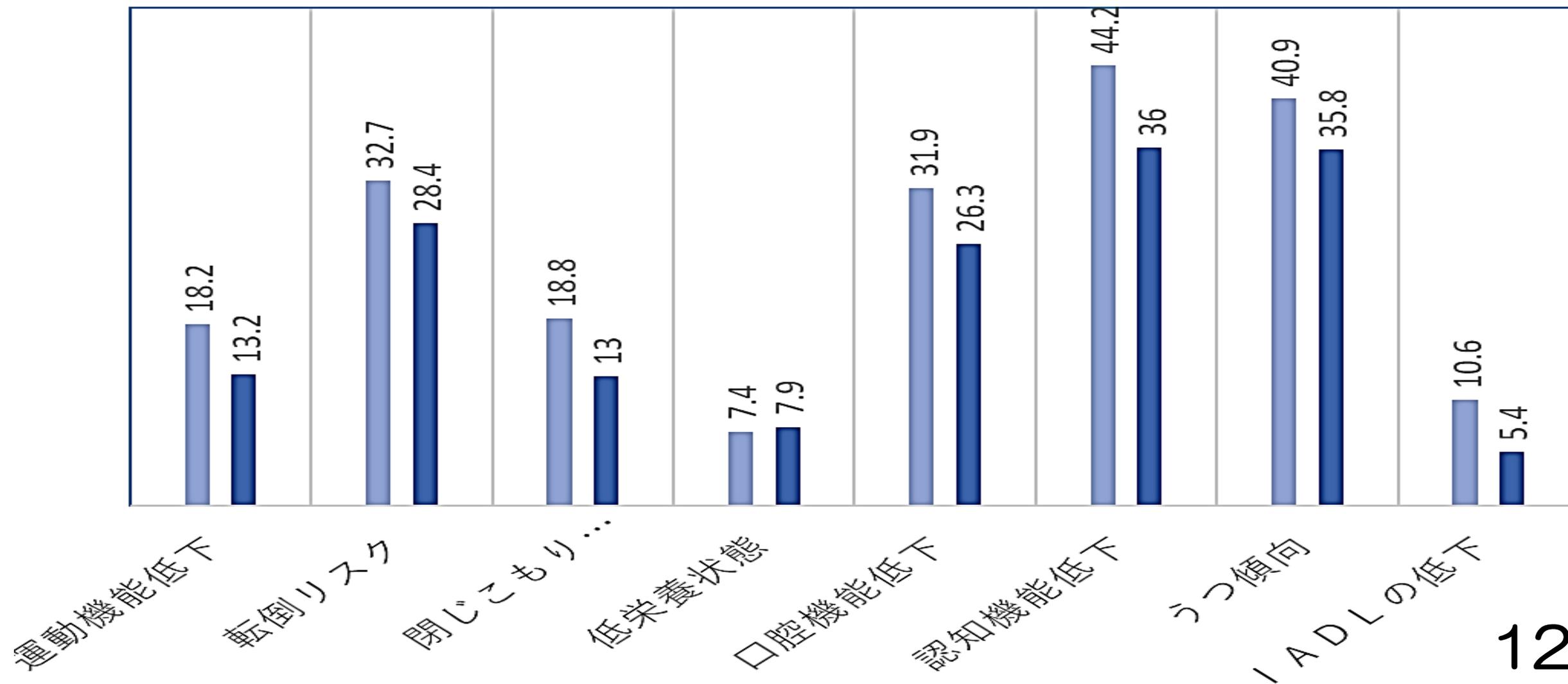
ボランティアグループ	4人
スポーツ関係のグループ・クラブ	17人
趣味関係のグループ	12人
学習・教養サークル	2人
介護予防の通いの場	8人
老人クラブ	4人
町内会・自治会	3人
収入のある仕事	13人

●地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味活動等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを推進するために、あなたは参加しますか。

	参加者での参加	お世話役での参加
ぜひ参加したい	7人	2人
参加してよい	43人	27人
参加したくない	35人	58人
すでに参加している	8人	4人
無回答	7人	10人

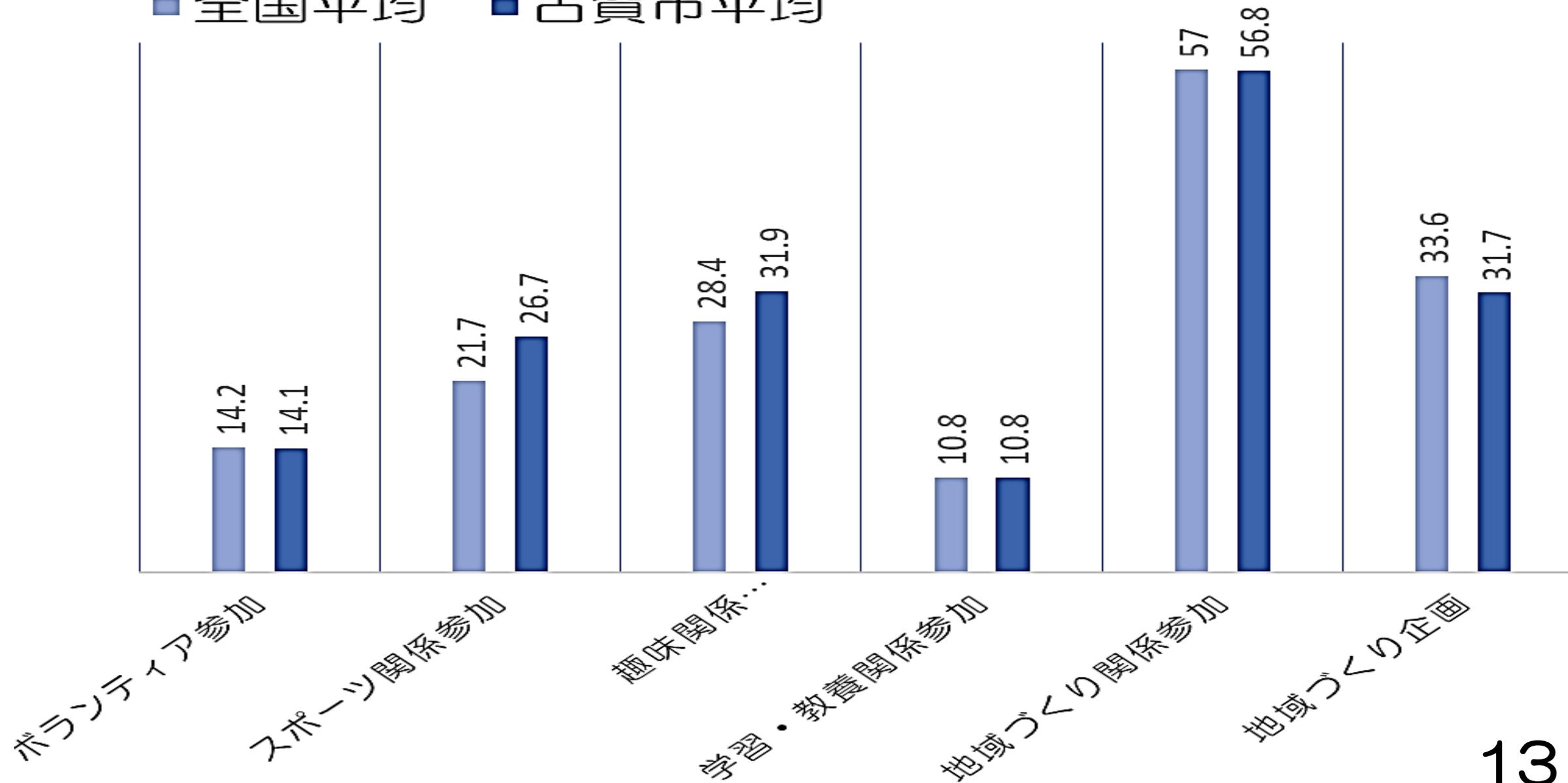
高齢者身体的リスク状況(2018.2月現在)

■ 全国平均 ■ 古賀市平均



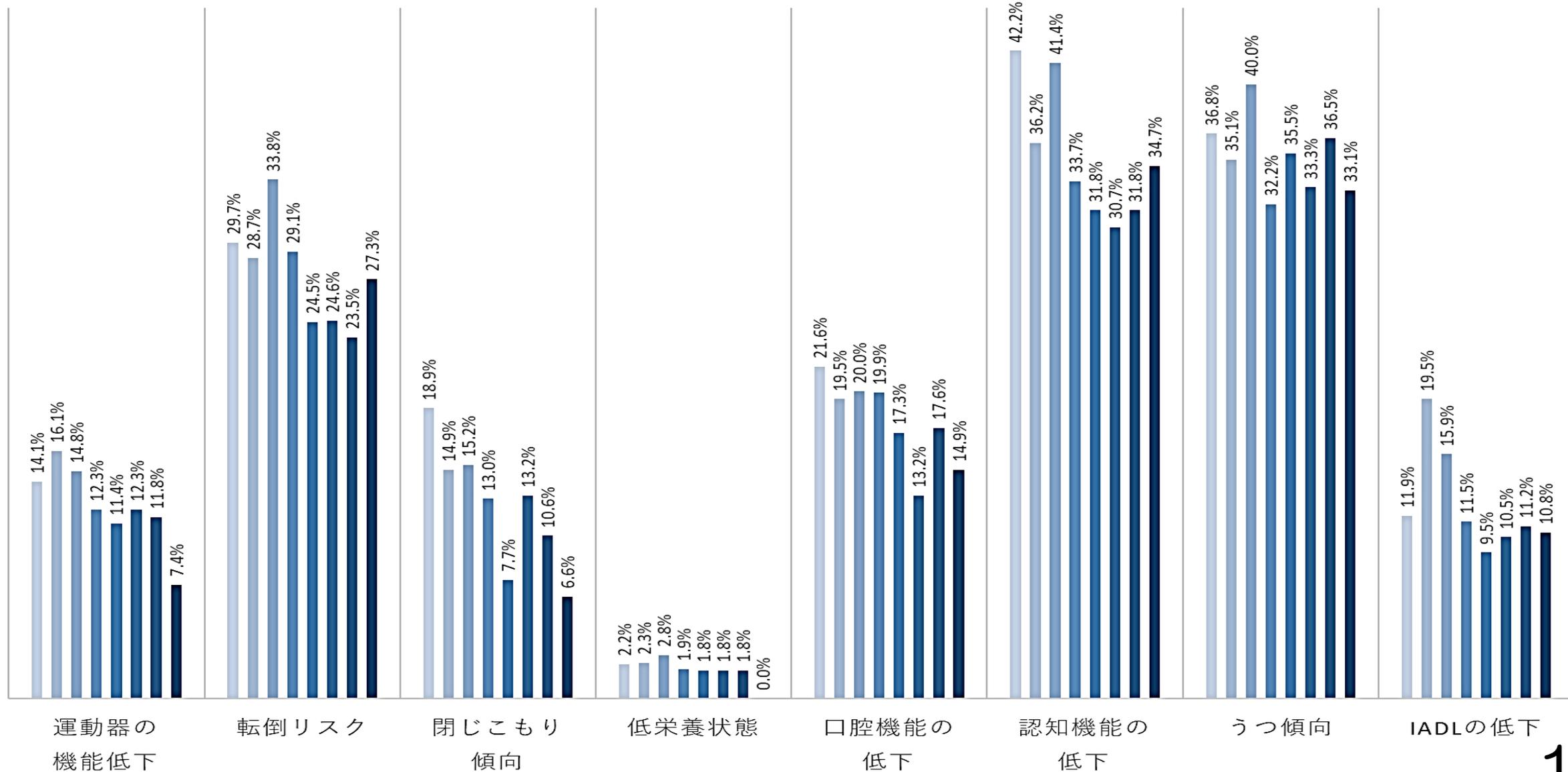
高齢者社会参加意識（2018. 2月現在）

■ 全国平均 ■ 古賀市平均

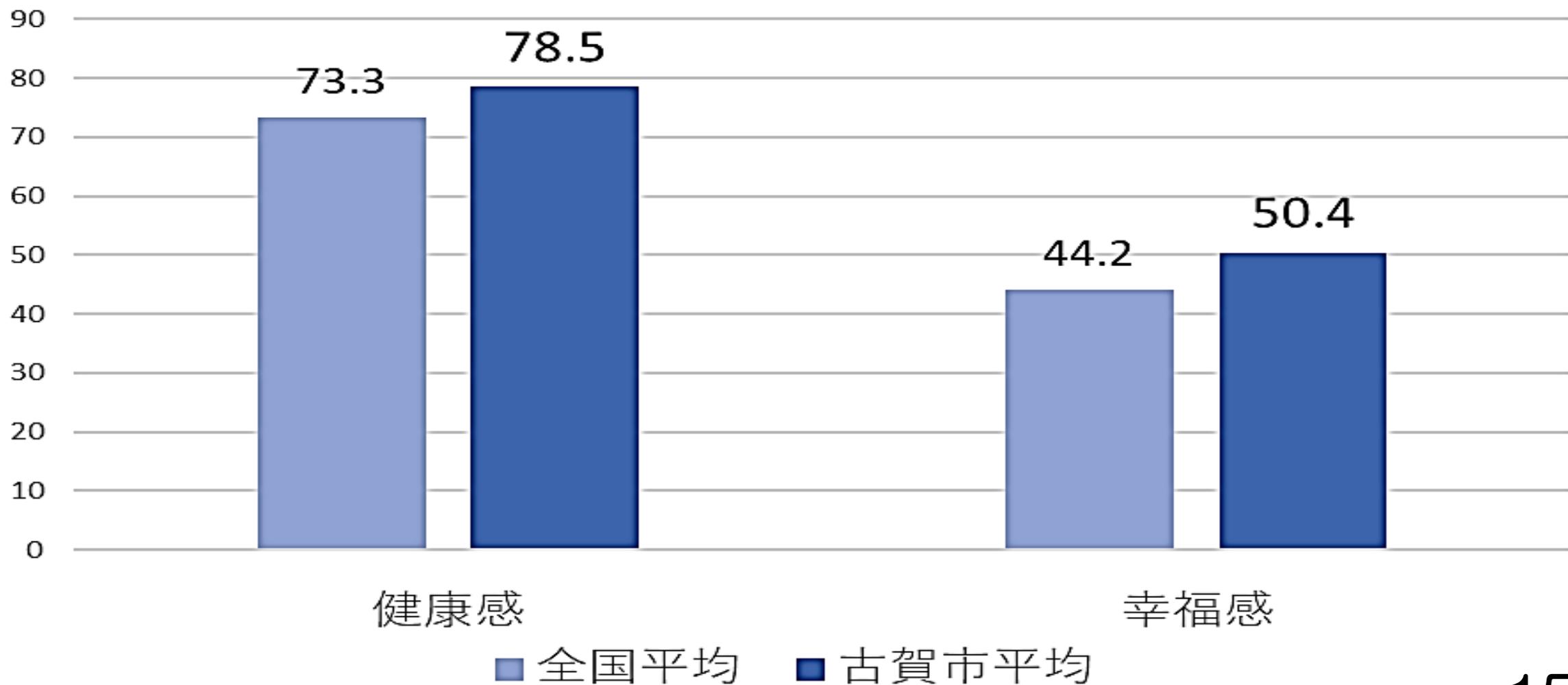


校区別リスク状況

■ 小野校区(n=121) ■ 青柳校区(n=174) ■ 古賀東校区(n=290) ■ 古賀西校区(n=261) ■ 花見校区(n=220) ■ 千鳥校区(n=114) ■ 花鶴校区(n=170) ■ 舞の里校区(n=121)

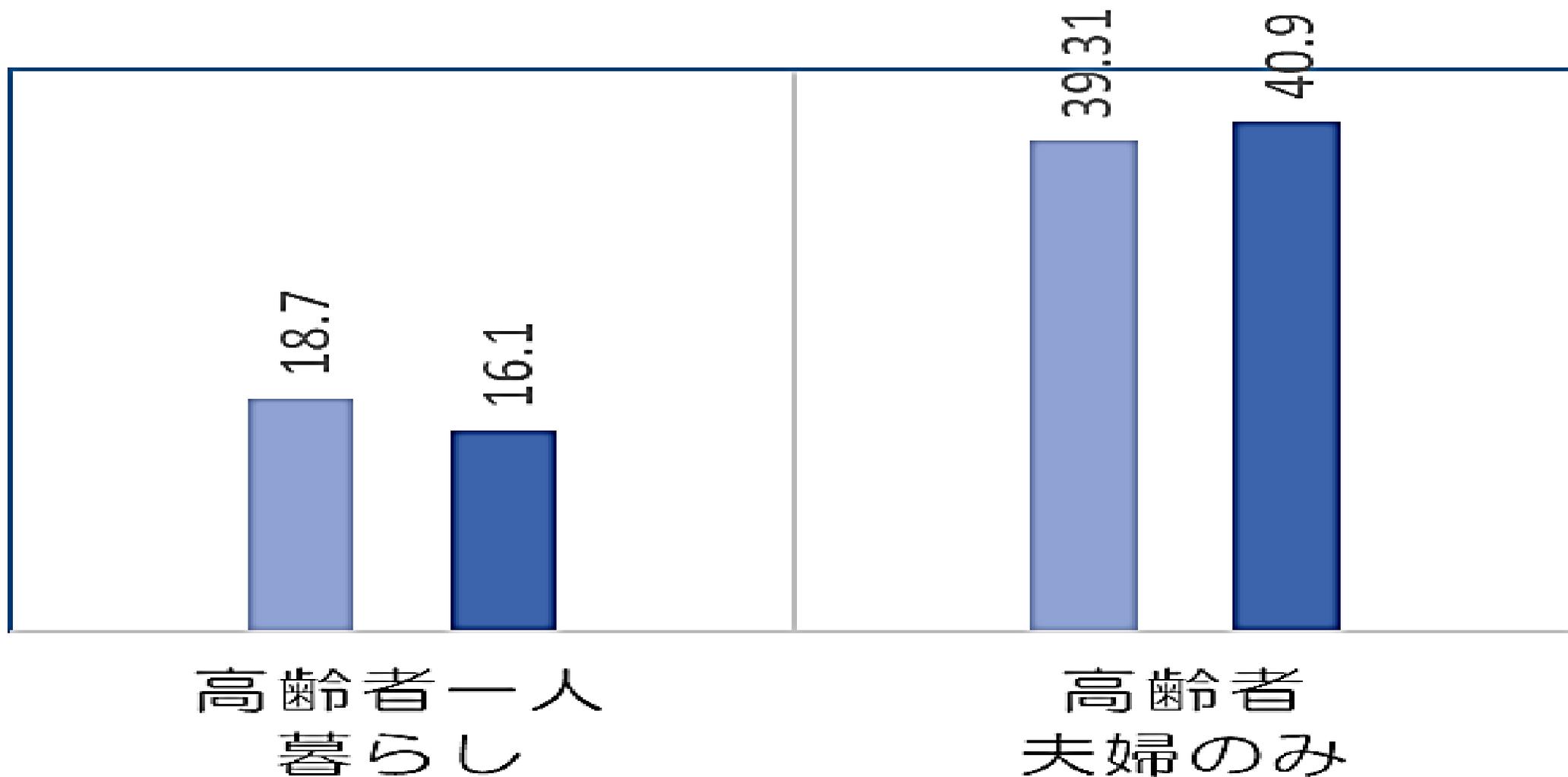


高齢者健康感・幸福感（2018. 2月現在）

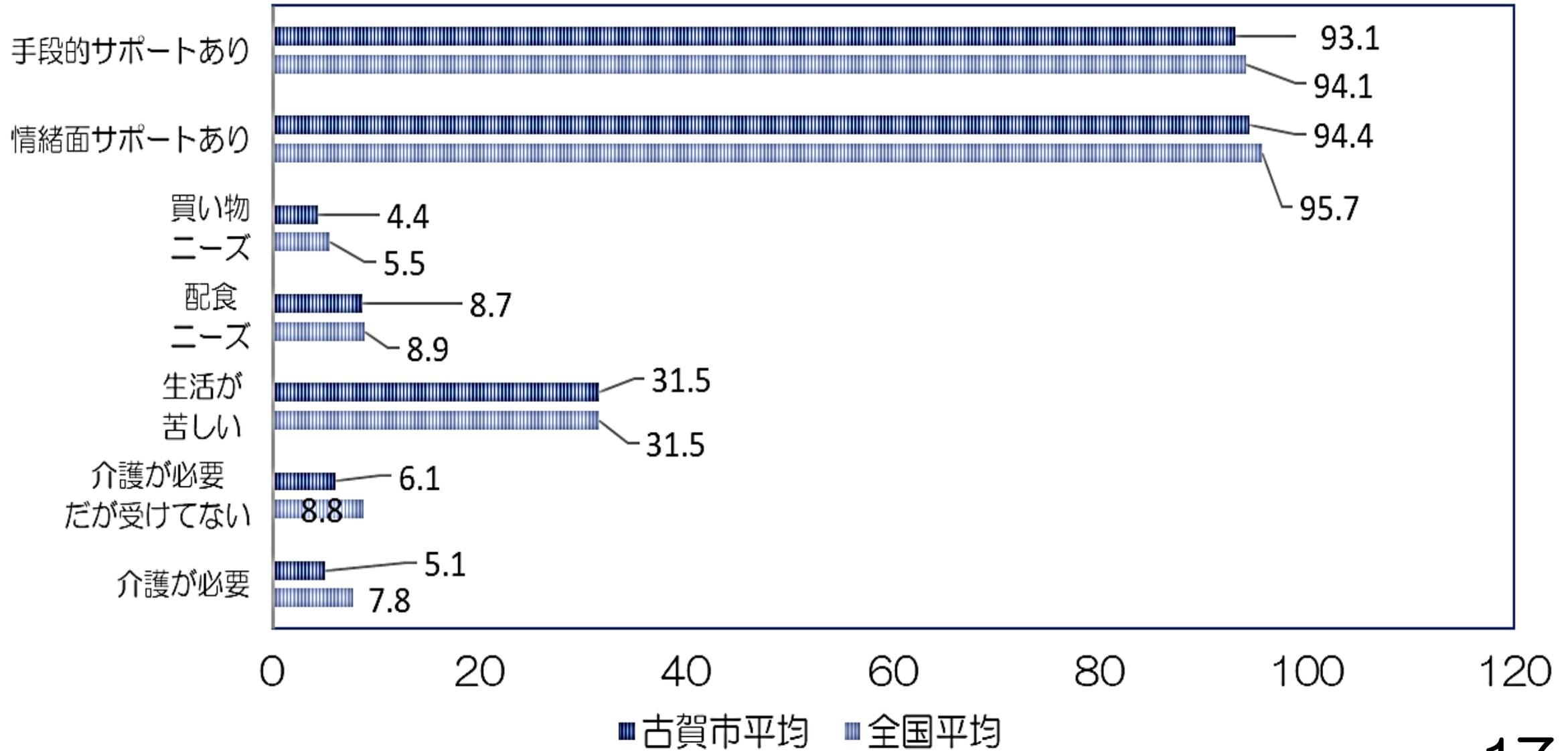


高齢者状況（暮らし）

■ 全国平均 ■ 古賀市平均



高齢者状況（支援等）

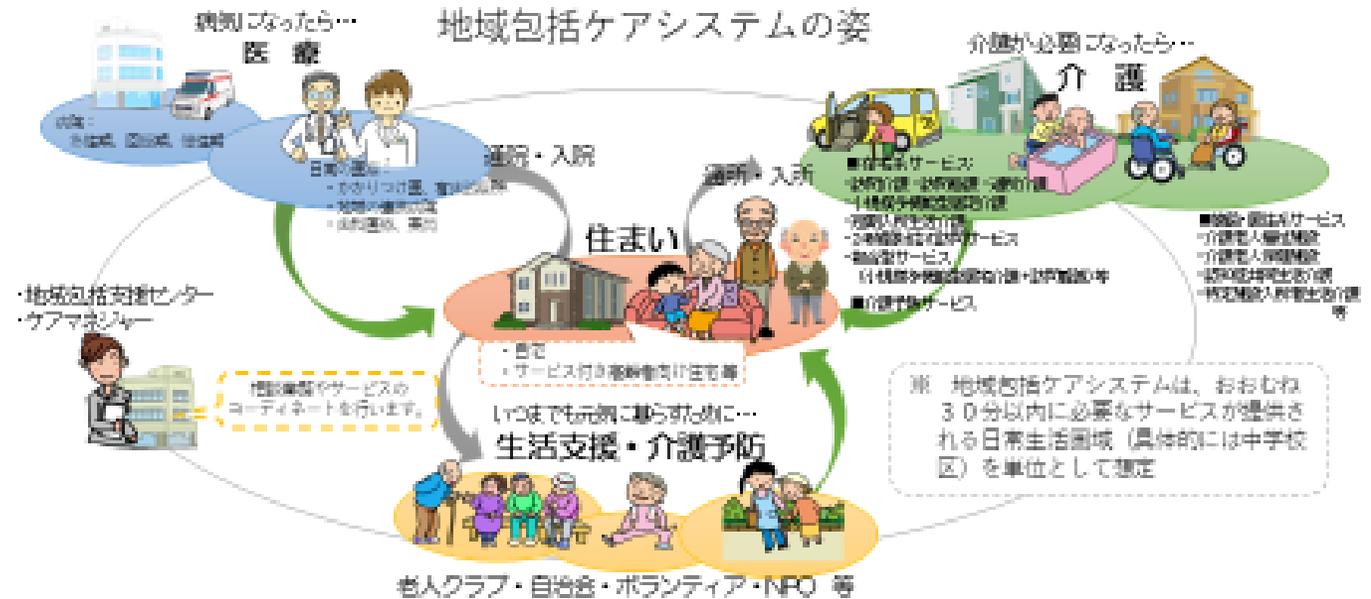


介護保険が めざすもの

～平成27年 介護保険法改正～

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



介護予防・日常生活支援 総合事業ガイドライン 巻頭

平成27年度に介護保険の制度が改正
され、介護予防と日常生活支援が一体と
なって地域づくりを行うことの重要性が
打ち出され、より強化されることとなり
ました。



生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。
具体的には、生活支援サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。



市町村を核とした支援体制の充実・強化

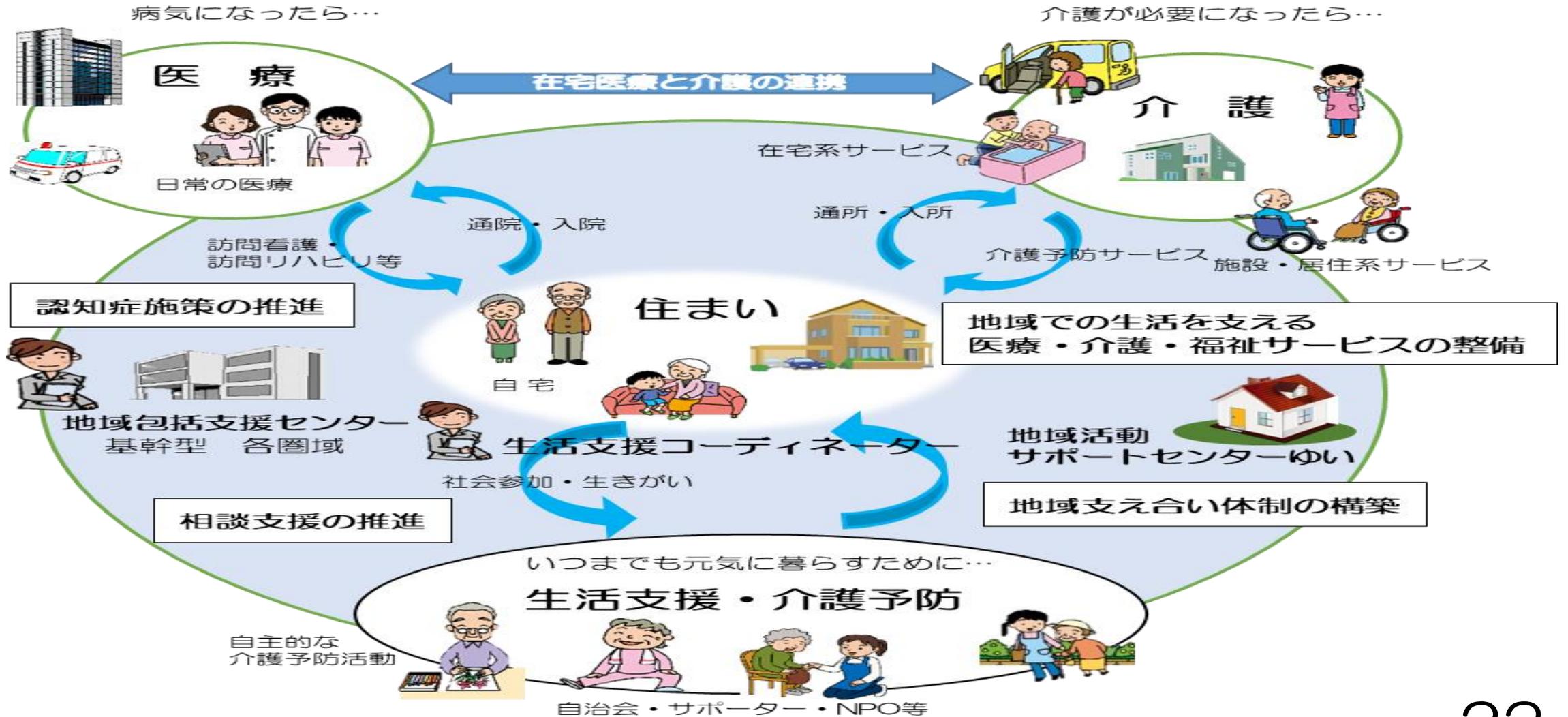
古賀市の取組

～介護予防と日常生活支援の体制整備の取組～



古賀市版地域包括ケアシステムの姿

～住み慣れた地域で支えあい、最期まで安心して暮らせるまちをめざして～



これからは、介護予防と日常生活支援が 一体となり地域活動を行うことが大切です

- 高齢者の日常の困りごとを支えてきた社会福祉協議会



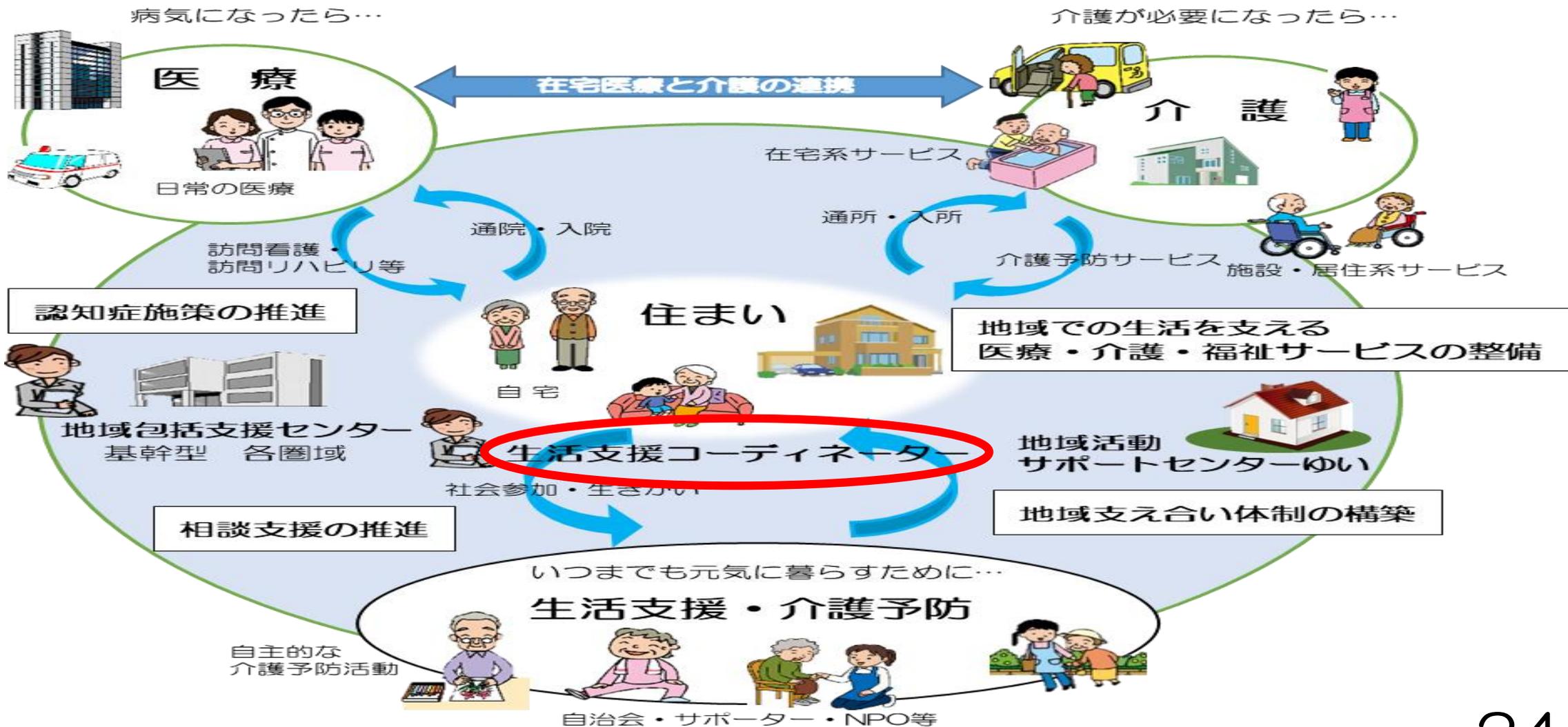
- 高齢者の介護予防を推進してきた介護支援課



高齢者が住み慣れた地域で、最期まで安心して暮らせる
地域活動を支援していきます。

古賀市版地域包括ケアシステムの姿

～住み慣れた地域で支えあい、最期まで安心して暮らせるまちをめざして～



生活支援コーディネーターは、高齢者を取りまく地域の介護予防や日常生活支援の課題を、地域の人たちと解決していく案内人のようなものです。

地域の課題は、生活支援コーディネーター一人で解決できるものではなく、多くの人達力を借りながら、人と人をつなぎ、解決の道を探っていくのです。

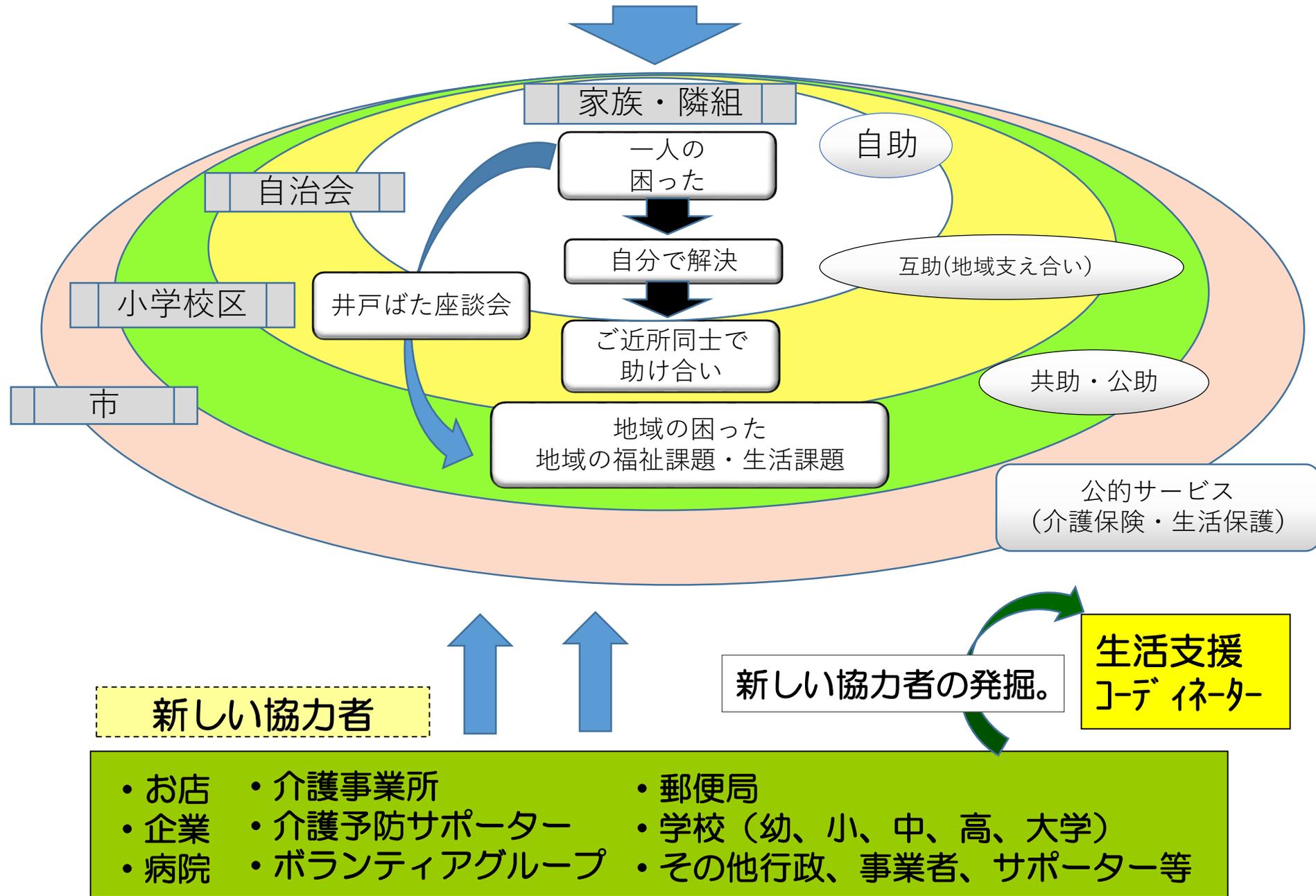


介護保険では、その生活支援コーディネーターが地域の様々な人たちと課題解決の糸口を探っていくためのシステムを作っていくように推進しています。

それは、地域支えあいネットワーク（協議体）であり地域ケア会議です。

古賀市は、今まで古賀市が作ってきた地域の絆を切ることなく、よりつながりを広げた、古賀独自の課題解決の体制を作っていくことにしました。

地域や高齢者の声をどう活かすか？



新しい協力者

- お店
- 介護事業所
- 郵便局
- 企業
- 介護予防サポーター
- 学校 (幼、小、中、高、大学)
- 病院
- ボランティアグループ
- その他行政、事業者、サポーター等

新しい協力者の発掘。

生活支援
コーディネーター

「住み慣れた地域でともに支えあい、最期まで安心して暮らせるまちづくり」をめざした体制の構築

介護予防・生活支援・医療・介護 地域支えあいネットワーク体制

①

第1層 地域支えあいネットワーク全体会議（協議体）

【内容】 関係機関の代表者が集まり古賀市の高齢者を取りまく現状把握や体制整備の学習を行う。（年間1回程度 ①学習会 ②年間報告会）

第1層 地域支えあいネットワーク課題別会議（協議体専門委員会）

【内容】 古賀市の課題として協議が必要な場合には、関係団体を生活支援コーディネーターが選出し、課題別会議を開催することで、課題解決をめざす。

第1層生活支援
コーディネーター

地域ケア会議
アドバイザー

コスモス
ネット委員

行政機関

地域活動
団体

包括支援
センター

地域活動サポ
ートセンター運営
委員会

社会福祉
協議会

・企業
・NPO

地域活動に意欲
のある市民

事例から見てきた地域課題の明確化

各小学校区の介護予防・生活支援の現状と成果課題の明確化

③

地域ケア推進会議（市主催）

【内容】 住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを支援するために、社会資源を活用しながら地域力を高め、地域課題について情報交換を行い問題解決に向けた取組を推進する。

コスモスネット委員(医療介護専門職代表)

地域課題の把握・地域づくり資源開発・施策形成の提言

地域ケア個別会議（包括支援センター主催）

【内容】 ケースを検討することにより、①地域支援ネットワークの構築
②ケアマネジメント支援③地域課題の把握を行う

地域ケア会議アドバイザー：看護師・リハ職・管理栄養士・歯科衛生士
薬剤師・生活支援コーディネーター等

事業対象者・要支援認定者の個別事例

②

第2層 地域支えあいネットワーク全体会議（各小学校区協議体）

小野・青柳・古賀東・古賀西・花鶴・千鳥・花見・舞の里（8小学校区）

【内容】 各小学校区にて、関係機関が集まり地域の高齢者を取りまく現状把握や体制整備の学習を行う。（年間2回程度 ①学習会 ②年間報告会）

第2層生活支援
コーディネーター

第2層 地域支えあいネットワーク課題別会議（協議体専門委員会）

【内容】 各小学校区の課題に対して協議が必要な場合には、関係団体を2層生活支援コーディネーターが選出し、課題別会議を開催することで、課題解決をめざす。

各地域の高齢者の介護予防・生活支援における地域状況

活動主体へフィードバック

協議から生み出された解決策の提案やサービス

第3層 各自治会活動・地域の団体活動・市民の活動（困った時はお互いさまたよりあえる、仲間作り、意識作り）

行政・地域包括支援センター（3職種）

役割：会のコーディネート機能・基盤整備
目的：地域課題の抽出。地域情報の共有・フィードバック

生活支援コーディネーターの業務

目的：「高齢者の介護予防・生活支援等のサービスの体制整備を推進していく。」
役割：①生活支援の担い手の育成（第1層・第2層）②介護予防・生活支援サービスの開発（第1層・第2層）
③関係者のネットワーク化（第1層・第2層）④ニーズとサービスのマッチング（第2層）

①

古賀市 第1層地域支えあいネットワーク（協議体）の流れ

第1層地域支えあいネットワーク全体会

古賀市の高齢者等の状況把握・研修・参画の意向確認（年1回程度）
地域支えあいネットワークに参画する機関・団体・地域代表者・企業等



情報提供
普及啓発

生活支援コーディネーターは、「高齢者になっても安心して暮らせる地域作りを、。支援者を育成しながらお手伝いいたします。」



第1層 生活支援コーディネーター

古賀市高齢者等状況の見える化

地域の集いの場にて地域状況を把握
見える化



古賀市の高齢者課題の明確化

見える化したものを地域へ
フィードバックし課題を明確にする

第1層 地域支えあいネットワーク課題別会議

課題に対する関係機関・団体・企業市民が集まり協議を行う
（高齢者の地域課題が明確になった段階で必要に応じて開催）

課題のテーマによって、関係する人達が集まって課題解決を探っていきましょう



だんだん地域の課題が見えてきたな



地域活動へのフィードバック



さっそく地域に知らせよう

社会資源とのコーディネート・マッチング
新たなサービスの創設



住み慣れた地域で共に支え合い 最期まで安心して暮らせるまちづくり

まとめ

～豊かに生きていく
ために～



こまったときはお互いさまたより合えるまち

この言葉は、古賀市が作成した地域福祉計画のめざす将来像です。

まずは、あなたがあなたらしく、元気であることから始めてください。そしたら、きっと周りの人に、その元気を少しおすそわけしていただけたと思います。

そして、地域の人と声かけ合い手をつなぎあえば、温かさのある地域で安心して暮らせることにつながっていきます。地域に住む一人ひとりの方の小さな力も、集まれば大きな力となります。そんな地域が、どんなことがあってもびくともしない地域となるのです。



高齢者になっても、住み慣れた地域で共に支えあい 安心して暮らせる地域づくりをめざして

ひとり一人の支え合いの気持ち地域づくりの土台です。しかし、個人や家族だけで様々な困りごとを解決したり、健康づくりを行ったりすることが難しくなっています。そんな時だからこそ、地域の人だけでなく市民団体や企業の方にも、地域づくりに参画していただき、ひとり一人が、この地域に住んでよかったと、終期を迎えたときに思える、温かな地域を作っていきましょう。

